

令和7年度 第15回宮崎チャレンジマッチ「ハンドボール競技」報告

宮崎チャレンジマッチ実行委員会

第15回宮崎チャレンジマッチ「ハンドボール競技」がMRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・宮崎県・宮崎県教育委員会・公益財団法人宮崎県スポーツ協会の主催で6月29日（日）、宮崎市総合体育館にて開催された。

今大会では、令和5年度全国高等学校選抜ハンドボール大会をはじめとして令和6年度の高等学校主要大会を全て制した現在日本でNo.1の山梨県駿台甲府高等学校男子ハンドボール部と、2年連続国民スポーツ大会3位入賞の兵庫県神戸星城高等学校女子ハンドボール部を招待し、本県男女少年選抜との対戦形式でチャレンジマッチを開催した。

女子の試合では、幸先よく立ち上がった宮崎選抜が、堅い守りからの速攻で点を決めリードするものの、落ち着いたボール回しから着実に点を決める神戸星城が徐々に点差を縮め、前半途中からは逆にリードされる展開となり、7点差を付けられて前半を終えた。

後半も、宮崎選抜の攻撃のミスを見逃さない神戸星城が終始大きくリードする場面が続いたが、宮崎選抜もターゲットエイジ選手の活躍で粘り強く戦い、21-36で負けはしたものの、2年後に向けた明るい材料も見られた試合であった。

続いて行われた男子の試合は、立ち上がりから日本一のチームに対して気持ちで一步も引かない宮崎選抜が駿台甲府と五分五分の試合を展開し、前半を14-15で折り返した。

後半も引き締まった守りから素早い速攻で互いに点を取り合う展開となり、ゴールキーパーの好守もあって観客を大いに沸かせた。残り5分を切って1点差に詰め寄った宮崎選抜であったが、勝負所の退場が響き、そのチャンスを見逃さない駿台甲府に突き放されて、27-30で惜しくも大金星を逃した。

高等学校のブロック大会後というタイトなスケジュールでの本大会開催となったが、決勝戦でしか体験できない選手紹介からの入場セレモニーや、立ち見が出るほどのたくさんの応援の中でハイレベルの相手と対戦できたこと、前日の交流練習会でターゲットエイジの強化も含めて実践さながらの練習に取り組めたことは、インターハイ、九州ブロック大会等の大事な大会を控える本県代表にとって、とても有意義な大会となった。

また、主管した宮崎県ハンドボール協会にとっても、令和8年度の国民スポーツ大会リハーサル大会や全国高等学校選抜ハンドボール大会、そして2027年宮崎国スポに向けた運営上の課題を様々な視点で見つけることができたことは、大変貴重な経験となったようである。

最後に、今大会の開催にあたり、御支援いただいた協賛各社等の皆様、チーム選考から大会の準備・運営に御尽力くださった宮崎県ハンドボール協会、そして多くの県民の皆様から心から感謝申し上げます。

【試合結果】

男子	駿台甲府高等学校	30	[15-14]	27	宮崎県高校選抜
				15-13			
女子	神戸星城高等学校	36	[18-11]	21	宮崎県高校選抜
				18-10			

【優秀選手賞】

男子	轟木 友也（宮崎県高校選抜）	小路 鳳太（駿台甲府高等学校）
女子	八幡 結音（宮崎県高校選抜）	濱口 杏奈（神戸星城高等学校）

【協賛各社の紹介】



【開会セレモニー・実行委員長挨拶】



【チャレンジマッチ第1試合目 宮崎県選抜女子 vs 神戸星城】



【チャレンジマッチ第2試合目 宮崎県選抜男子 vs 駿台甲府】



【優勝楯贈呈】

【優秀選手インタビュー】



【応援するWAP生】

【エンディング】

